



令和7年度 富山市立水橋西部小学校

天瀬っ子

学校だより 2月号



受け継がれる最高学年のバトン — 学校を動かす5年生の挑戦 —

5年担任 白崎 弘宜

3学期が始まり、5年生の教室には最高学年への階段を上り始めるような、心地よい緊張感と活気が溢れています。現在、子供たちは「卒業お祝いプロジェクト」と銘打ち、これまでお世話になった6年生に感謝の思いを伝え、門出を心からお祝いするための活動を自主的に企画し、動き出しています。



メッセージカードを作る5年生の子供たち

この活動を始めるにあたり、担任から子供たちへ、「このプロジェクトは、みんながこれまで学校生活で学んできしたことや経験してきたことを発揮する、大切な実践の場です。そして、今日からは5年生が下級生のリーダーとして学校を動かし、全校みんなで6年生の卒業をお祝いしていくのですよ」と伝えました。その言葉を真剣な表情で受け止めた子供たちは、自分たちが学校のリーダーであるという自覚が芽生えたようでした。そして、まずは活動の指針となる「目当て」をどうするかについての話し合いを始めました。その話し合いの場では、普段はあまり自分から意見を出さない子供も、自分の思いを届けようと一生懸命に言葉を紡ぐ姿が見られました。クラス全体が「よりよいものにしたい」という熱気に包まれる中、Aさんが真っ直ぐな瞳で次のように提案してくれました。「目当ての中に『全力で祝う』という言葉を入れたいです。理由は、もしいい加減にやってしまったら、これまでたくさんお世話になった6年生さんに失礼だと思うからです。学校全体で全力でお祝いすることこそが、6年生への一番の恩返しになると思うんです」 Aさんのこの言葉を聞いた瞬間、教室のあちこちで子供たちが深く、何度も頷いていました。その場にいた全員の心が一つに重なり、6年生のために最高のお祝いをしようという決意が、一気に高まった感動的な瞬間でした。

現在、5年生は休み時間等のわずかな隙間を見付けては、誰に指示されることもなく、自分たちで相談しながら一生懸命に活動に励んでいます。自分たちの手で学校を動かし、感謝を形にしようと奔走するその背中には、最高学年のバトンを引き継ぐ者としての頼もしさが溢れています。6年生への恩返しを「全力」で成し遂げようとする彼らの挑戦を、教職員一同、温かく見守り支えていきたいと思います。

初老の会(平成8年度卒業生一同)様より寄附をいただきました



①拡声器:電子ピストルに接続し、短距離走のスタート時に使用します。

②ストップウォッチ:プリンターに接続し、測定したタイムを印刷できます。

③プリンター用ロールペーパー:ストップウォッチに接続するプリンター用の用紙です。

子供たちの体力向上のため、大切に使用します。
ありがとうございました。